

第6回 白梅子ども学講座

『いじめ』の深層を考える いま子どもの現場で何が起きているのか

山路 憲夫

【企画の狙い】

過去5回の「白梅子ども学講座」は「子ども学の可能性」から始まり、前回の「世界の子ども政策」まで、さまざまな角度から「子ども学」の課題を取り上げてきました。「子ども学」は歴史こそ浅いですが、学際的な学問です。総合学としての知見を結集して、「子ども学」の内容を豊かにして行くことが求められており、白梅の「白梅子ども学講座」はそれを発信していく大事な場と考えます。

第6回はこれまでとは少し角度を変えて、社会的に大きな注目を集めた「いじめ」を取り上げました。

2012年は滋賀県大津市の中学二年生が「いじめ」を苦に自殺した事件をきっかけに事件をはじめ、さまざまな「いじめ」が表面化しました。かつてなく多発しているというだけでなく「いじめ」の様相が変わりつつある。従来の延長線上ではとらえきれない現象としてより多角的な分析が必要なのではないか。子どもの現場に、子どもの心に何が起きているのか。何より、この日本の大人社会に大きな変化が起きているのではないか。それをどうとらえ、どう対応すべきなのか。

事件の表面だけを見るのではなく「子ども学」の視点から多角的に考えることが求められているのではないか。その視点から「いじめ」を取り上げることになりました。

幸い毎回100人近い教育、保育関係者、研究者、住民が参加、活発な議論が交わされました。

第一回「いま、子どもの現場で何が起きているのか」では「ゆとり教育」の提唱者、寺脇研・京

都造形芸術大学教授(元文科省審議官)が「学校現場で何が起きているのか」と題して、これまでの文部行政、学校現場の課題を振り返り、玉木研二毎日新聞編集委員がこれまでの「いじめ報道」の経緯、課題を報告。それを受けて、汐見稔幸・白梅学園大学学長との三者で、学校現場のさまざまな問題点、「いじめ」を生んだ社会的背景について論じました。

第二回目の講座では、いじめをはじめとする子どもをとりまく様々な問題・課題に対して、家庭・学校現場・地域といった視点から、親や教師ができることについて改めて考えるという企画をたてた。講師として、臨床心理士で学校現場の危機介入に詳しい大阪大学大学院准教授の野坂祐子先生と、白梅学園大学大学院子ども学研究科長の無藤隆先生のお二人にご登壇いただいた。まず、野坂先生からは、「いじめの理解と介入：学校危機としていじめを捉える視点から」というタイトルでご講義していただく中で、学校の危機対応の具体的な方策について、また、被害・加害者の子どもたちへのかかわりにおいて、子どもの持ちやすい認知のゆがみなどもしっかり踏まえた本質的なかかわりがいかに大切であるか、ということを変更して教えていただいた。次に、無藤先生からは、「いじめ問題への対応：その難しさへの覚悟と、学校・家庭・地域の支え合い」というタイトルで、いじめを「もつれ」という視点からとらえ直すこと、そこをほぐしていくという子ども同士の学びに対しても、大人がどうかかわることができるか、など、大変示唆に富むお話をいただいた。

その後、両先生による対談も行われ、子どもを取

り巻く環境において安全、安心という視点がいかに大切であるか、同時に、その中で子どもたちが人間関係の小さなトラブルを経験しそこから学びつつ育つことにも発達の意味があることなど、具体例を交えて話された。さらにフロアからの質疑応答を含めた活発な意見交換がなされた。64名の参加者の方々も、いじめをはじめとする子どもの問題に対して、大人にできることはまだ沢山あるということを改めて考える機会となったのではないだろうか。

(第二回まとめ:福丸由佳)

第三回目は「いじめにどう対応するのか」というテーマのもと、スクールソーシャルワーカー並びに修復的対話を研究している山下先生と、長年少年事件や審判に携わっている石井弁護士による対談を企画した。

いじめ事件を契機に、いじめ対策が政府や各地で検討されているが、問題の原因を子どもだけに絞り、被害者のケア、加害者への指導といった直線的な対応は本当に効果的なのだろうか。

今回の対談では、お二人が考えるいじめ(子ども同士のいびつな関係を含む)の原因とはどこにあるのか。いじめ問題の解決方法として取り上げられている訴訟(裁判)や弁護士への相談は効果があるのか。規則や法律の厳罰化は果たして意味があるのだろうか。そして、いじめによって損なわれてしまった関係を修復するための方法はあるのだろうか。それぞれの立場から見解を頂きながら、子どもの最善の利益を重視した学校におけるいじめ対応について考えた。

当日は、平日夜間にも関わらず63名のご参加があり、質問も活発であった。

(第三回まとめ:牧野晶哲)

会場:国分寺Lホール

12月3日(月)18:30~20:30

「いま、子どもの現場で何がおきているのか」

「学校現場で何がおきているのか」

寺脇研氏

(京都造形芸術大学教授・元文部科学省審議官)

「いじめ報道を振り返る」

玉木研二氏(毎日新聞専門編集委員)

シンポジウム

「いま子どもの現場で何が起きているのか」

寺脇研氏

(京都造形芸術大学教授・元文部科学省審議官)

玉木研二氏

(毎日新聞専門編集委員)

汐見稔幸

(白梅学園大学 白梅学園短期大学学長)

司会:増田修治

(白梅学園大学子ども学科准教授)

1月31日(木)18:30~20:30

「子どもの心と家庭・学校・地域」

無藤隆

(白梅学園大学大学院研究科長・

白梅子ども学研究所所長)

野坂祐子氏

(大阪教育大学学校危機メンタル

サポートセンター准教授・臨床心理士)

司会:福丸由佳

(白梅学園大学発達臨床学科教授)

2月20日(水)18:30~20:30

「いじめにどう対応するのか」

山下英三郎氏

(日本社会事業大学名誉教授)

石井小夜子氏

(弁護士・山梨学院大学法科大学院非常勤講師(少年法))

司会:牧野晶哲

(白梅学園大学家族・地域支援学科講師)